令和4年度「東京都環境影響評価審議会」第一部会（第2回）議事録

■日時 令和4年5月19日（木）午前10時00分～午後0時27分

■場所 WEBによるオンライン会議

■出席委員

柳会長、齋藤第一部会長、荒井委員、小林委員、高橋委員、堤委員、平林委員、水本委員、森川委員、横田委員

■議事内容

1 環境影響評価書案に係る質疑及び審議

ア （仮称）小山三丁目第1地区第一種市街地再開発事業【3回目】

⇒ 前回到引き続き、選定した項目について、質疑及び審議を行った。

イ （仮称）小山三丁目第2地区第一種市街地再開発事業【3回目】

⇒ 前回到引き続き、選定した項目について、質疑及び審議を行った。

ウ （仮称）神宮外苑地区市街地再開発事業【4回目】

⇒ 前回到引き続き、選定した項目について、質疑及び審議を行った。

令和4年度「東京都環境影響評価審議会」

第一部会（第2回）

速 記 録

令和4年5月19日（木）

Webによるオンライン会議

(午前 10 時 00 分開会)

○下間アセスメント担当課長 皆様、本日は御出席をいただきありがとうございます。

それでは、本日の委員の出席状況について、事務局から御報告申し上げます。現在、委員 12 名のうち、10 名の御出席をいただいております。定足数を満たしております。

これより、令和 4 年度第 2 回第一部会の開催をお願いいたします。なお、本日は、傍聴の申し出がございません。

部会長、よろしくお願い申し上げます。

○齋藤部会長 それでは、会を始めさせていただきます。会議に入ります前に、本日は傍聴を希望の方がおられます。なお、本会議の傍聴は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、Web 上での傍聴のみとなっております。

それでは、傍聴の方を入室させてください。

(傍聴人入室)

○下間アセスメント担当課長 傍聴人の方、入室されました。

○齋藤部会長 ただいまから第一部会を開催いたします。

本日の会議は、次第にありますように、「(仮称) 小山三丁目第 1 地区第一種市街地再開発事業」環境影響評価書案に係る質疑及び審議の 3 回目、それから、「(仮称) 小山三丁目第 2 地区第一種市街地再開発事業」環境影響評価書案に係る質疑及び審議の 3 回目、それから、「(仮称) 神宮外苑地区市街地再開発事業」環境影響評価書案に係る質疑及び審議の 4 回目及びその他となります。

○齋藤部会長 それでは、次第の 1 番目の「(仮称) 小山三丁目第 1 地区第一種市街地再開発事業」環境影響評価書案に係る質疑及び審議を行います。

なお、前回と同様に「小山三丁目第一種市街地再開発事業」は、第 1 地区と第 2 地区について、別の事業者が申請しています。審議は、第 1 地区、第 2 地区の順でそれぞれ行いたいと思います。

それでは、事業者の方に御出席いただきます。事業者の方は、Web 上での出席となります。入室をお願いいたします。

<事業者入室>

○下間アセスメント担当課長 事業者の方、入室されました。

○齋藤部会長 それでは、事業者皆様方、ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

本事業の審議につきましては、4回審議予定の3回目となります。本日の進め方ですが、最初に事務局から前回の審議内容を説明していただきます。説明の後、事業者の回答内容の再確認を含め、事業者に対する質疑を行います。

事業者の出席は今回までとなりますので、委員の皆さまは、確認したい点や疑問点など十分に議論をしていただきたいと思いますと考えております。よろしく願いいたします。

審議が終了しましたら事業者は退席します。その後、次回の総括審議に向けて、各委員より総括審議事項の候補となる事項を挙げていただきたいと思いますと考えております。

御協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、事務局から資料の説明をお願いいたします。

○下間アセスメント担当課長　それでは、資料1を御覧ください。

資料1は、過去2回の部会における審議の内容を整理したものととなります。委員からの指摘、質問事項等を環境影響評価項目ごとに「大気汚染、騒音・振動共通」「日影」「風環境」「温室効果ガス」「その他（史跡・文化財）」の順序で取りまとめており、合計3件、「その他（史跡・文化財）」が1件となりました。

前回で追加となった事項は、「取扱い」欄に前日の付として「4/26」（4月26日）と記載しております。

前回で追加となった指摘等の項目は、3ページ「大気汚染、騒音・振動共通」番号1、4ページ「日影」番号2、同ページ「風環境」番号2となります。要約して内容を御説明いたします。

「大気汚染、騒音・振動共通」に関しては、番号1として、この第1地区と第2地区の間の区道の商店街通りについて質疑が行われました。

「日影」番号2に関しては、計画地の周辺に福祉施設や教育施設が分布しているので、調査地点等の追加について質疑が行われました。

「風環境」に関しては、番号2として、評価に際し小山三丁目第2地区の工事に関する影響について質疑が行われました。

資料の説明は以上です。

○齋藤部会長　ありがとうございました。

前回の質疑応答について、修正等がございましたら、委員の皆様方からコメントをお願いしたいと思います。なお、発言される際には、最初にお名前をお願いいたします。

事業内容や評価書案に関する質問については、この後の事業者の方との質疑応答のと

きをお願いいたします。

いかがでしょうか。どなたか。

それでは、前回の質疑応答に関しては特に御発言がございませんので、質疑に進めさせていただきます。

前回の質疑応答について、事業者の方から何か補足の事項等ございますでしょうか。

○事業者 先ほど、区道の番号に記載の誤りがあったかと思えます。

一番上の項目の説明等のところの、区道 I-281 号となっているところですが、218 号となります。

○齋藤部会長 ありがとうございます。

それ以外では、補足の事項、説明等はないということによろしいでしょうか。

○事業者 はい。

○齋藤部会長 わかりました。どうもありがとうございます。

それでは、ただいまから、事業内容、評価書案に関しまして、事業者の方と質疑応答を行いたいと思います。

委員の方から、御意見や御質問等を受けたいと思いますので、御発言をお願いできればと思います。

高橋委員、よろしくをお願いいたします。

○高橋委員 よろしくお願ひします。

前回も、騒音・振動に関して特段の発言をしていなかったのですが、前回、森川委員から、道が細いから云々という、大気汚染に関する御発言がありました。

それに乗っかる形になってしまいますが、騒音や振動に関して、今まで、この環境影響評価書案の予測値が、基準値を下回っているからいいかなと思っていたのですが、道が狭いということに関連して、発言というか、指摘をさせていただきたいと思います。

騒音や振動のレベル自体がそれほど大きくなるかもしれないのですが、道が狭いということは、例えば、区道の I-218 号線などは、相当狭いところです。

その両側に店舗とか住居が迫っていますので、例えば、騒音などですと、両側の住居、店舗で反響して、想定より大きくなってしまう可能性もあります。

しかも、この走行ルート周辺の周辺は、商業地域や近隣商業地域ですが住宅も多くありますし、学校とか福祉施設なども点在しているところですので、特段の対策をしていただくのが適当ではないかと考えますが、事業者のほうで考えている対策があれば教えてく

ださい。よろしくお願いいたします。

○齋藤部会長 よろしくお願いいたします。

○事業者 ありがとうございます。

今の段階では、施工業者も決まっていない状況でございますので、具体の対策で、「こういうものが決まっています」というところまではなかなかない段階ではありますが、できるだけ警備員とかを配置して、ゆっくり走行するようにするとか、もちろん狭い道路の住宅の前のところで、アイドリングをしないとか、そういったような配慮は施工者に指導していきたいと考えております。

おっしゃるとおり、狭い道路を通行して入らざるを得ないような敷地になっておりますので、近隣に配慮して工事を進めたいと考えております。

○高橋委員 ありがとうございます。

狭い道路ですので、騒音、振動もそうなのですが、歩行者の安全という面も含めて考えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○事業者 ありがとうございます。承知いたしました。

○齋藤部会長 ありがとうございます。

そのほか、森川委員から手が挙がっています。よろしくお願いいたします。

○森川委員 前回はいろいろありがとうございます。

前回、先ほどから話が続いています道路の件で、「物ができ上がったあと、よく整備されて、歩行者の安全にも十分配慮できる」というお話をいただいて、よかったと思うのですが、工事中の間はどうなっているかということを確認させてもらえないかと思いません。

というのは、現地を視察したときも、歩行者の方もかなり多くて、商店街ということ皆さんは安心して、気が抜けたというか、安心して歩いているなという状況が確認できました。

ただ、工事が始まったときに、どのような対策をとっていかれるのかということ、出入口は結構きっちりしていると思うのですが、そこでの歩行者との関連というところを教えていただきたいと思えます。

それが1点です。またあとで、もう1つ御質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

○事業者 ありがとうございます。

工事の計画に、具体的に、例えば、「どの辺りに囲いが出てくるのか」みたいなところまではまだ決まっていないのですが、基本的には、敷地境界に沿って仮囲い、よく建築工事をやっているところで使っている白いパネルの壁みたいなものとかを出すような形になるかと思っておりますので、その外側、歩道がないので路側帯みたいな形になっていると思うのですが、その幅員は多分、その段階では現状と大きく変わらないのかなと思っております。

ただ、歩道の拡幅というか、セットバックとかして歩行空間をつくる工事とかをするときに、もしかしたら、車道側にも仮囲いをつくらないといけないということもあるかもしれませんので、そのあたりについては、当然、道路の使用許可とかを、警察、交通管理者からもらって、工事をするようになりますので、そういった関係行政と十分に打合わせをさせていただいて、安全の配慮策についても協議をさせていただいた上で、工事をさせていただくという形になるかと考えております。

○森川委員 ありがとうございます。

学校とかも多いような感じがしていたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

もう1点、大気汚染の観点からですが、これは、第2地区のアセスとは全く独立してやっておられるということですのでよろしいのでしたよね。お互いの影響ということは。

○事業者 手続きとしては別の事業者になりますので、別の環境影響評価の手続きをしておりますが、解析としては、工事中は両方の工事を見込んだ上での、騒音、振動、ないし大気汚染の解析という形にしてございますので、工事中については、向こうの工事、将来形については、向こうの開発を含めた形での解析としてございます。

○森川委員 では、建設機械が一番稼働する時期とかが、ちょっと近いかと思ひているのですが、その影響もきちんと入った上での解析になっているということですのでよろしいですね。

○事業者 工事用車両について、両方の工事用車両を見込んでやっておりますが、建設機械については、こちらの建設機械の影響のみの解析というところでやっております。

○森川委員 なるほど。そうすると、ここの第1地区は、建設機械の影響は、それほど大きくないように思ひますが、お隣の第2地区だと、工事の種類も違うということもあって、それなりの影響があるのかなと思ひます。

非常に場所が近いので、その影響が全くないわけではないので、このあたりのところ

をどのようにお考えになっているか。

第2地区の最大濃度の着地地点というのは、第1地区と全く逆の方向に出ている、資料上では、影響しないんだなというような形にはなっているのですが、これも、風向きとかいろいろな実際の状況があると思うので、「その隣にあるよ」ということで、建設機械の稼働の時期というのが、多分、ちょっとずれているように見えるのですが、ちょっと重なっているような時期もありそうなので、そこのところはどのように考えられているか。

例えば、建設機械をピークにならないようにするとか、そういった連携がどれぐらいとれそうなのかというところを、ちょっと教えてください。

○事業者 お答えさせていただきます。

先ほど申したとおり、建設機械につきましては、3-1、3-2ともそれぞれ独立しております。工事用車両については、沿道の車両の走行台数という情報を、相互に提供してやっています。

建設機械につきましては、御指摘のような点もあると思いますので、今後も、事後調査を行うときに、工事情報等を共有した上で、工事のピークが重なるような場合は、お互いの工事情報を提供しながら、事後調査の段階で予測結果との差がどうかということ、チェックしていきたいと考えております。

○森川委員 わかりました。

こちらは大丈夫かなというレベルだと思うのですが、それより大きい影響が出てきたときなどに対しては、ちょっと考えていただければいいかなと思います。ありがとうございます。

○事業者 ありがとうございます。

○齋藤部会長 どうもありがとうございました。

そのほかの委員の方はいかがでしょうか。何かございますでしょうか。

今回、土壌、地盤、水循環、自然との触れ合い活動の場、日影、風環境、景観、電波障害、廃棄物、温室効果ガスが上がっておりますが、各専門の委員の方から、何かコメントがあれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

特にはないようですが、玄委員は御欠席のようですが、何か事務局で預かってはいますか。

○下間アセスメント担当課長 こちらの質疑に関しては預かっておりません。

○齋藤部会長 わかりました。

よろしいでしょうか。

ほかに御意見がないということですので、この質疑に関しては終了したいと思います。

事業者の皆様方、本日はどうもありがとうございました。

○事業者 ありがとうございました。

○齋藤部会長 御退室をお願いできればと思います。

<事業者退室>

○下間アセスメント担当課長 事業者は退室されました。

○齋藤部会長 わかりました。

それでは、以上の議論を踏まえまして、次回の総括審議に向けた審議項目の候補を挙げていきたいと思えます。

委員の皆様から御提案をお願いしたいと思えますが、まずは、大気汚染に関連して、森川委員、いかがでしょうか。

○森川委員 今の状況だと、大気汚染という意味では大丈夫かなと思うのですが、心配なところとしては、今質問した、工事の最中にどれだけ安全が確保されるのかというところが、ちょっと心配かなと思っています。

あと、第2地区との連携というところを、「事後調査などで、影響があるかどうかということ、ちゃんと確認しますよ」ということですが、そこはしっかりやっていただかないといけないのかなと思っています。

○齋藤部会長 わかりました。

項目選定に上げることではないけれども、事務局から伝えていただくということによろしいでしょうか。

○森川委員 そうですね。第2地区との連携みたいなのをきちんとやっていただけるのかなというのがあれば、上げなくてもいいというくらいです。

○齋藤部会長 わかりました。

先方との関係もあるので、第2地区でも同じように発言をしていただいで、状況を確認しながら考えたいと思えます。

ありがとうございました。

○森川委員 ありがとうございます。

○齋藤部会長 それでは、騒音・振動に関して、高橋委員でしょうか。

○高橋委員 さっきちょっと指摘をさせていただいた、道路が細いことによる騒音・振

動の影響というのが、この評価書案での予測では大丈夫そうになっていますが、そこはちょっと懸念事項として上げてもよいかという気がしています。

○齋藤部会長 わかりました。

それでは、先ほど御指摘いただいた、騒音・振動に関する1点を項目選定として上げたいと思います。ありがとうございました。

その次は、日影、風環境については玄委員ですが、御欠席と思いますので、事務局から御説明があればお願いいたします。

○下間アセスメント担当課長 事務局からですが、玄委員からコメントを預かっておりますので、それを読み上げさせていただきます。

総括審議項目として、日影と風環境を総括審議項目に上げていただきたいとのコメントをいただいております。以上です。

○齋藤部会長 わかりました。

それでは、引き続きまして、温室効果ガスはいかがでしょう。

○堤委員 温室効果ガスは、上げなくても大丈夫かなと思います。「今後、計画が具体的に定まってくるにつれて、図書の制作段階でできる限り記載していただく」というようなコメントもいただいておりますので、これで大丈夫だと思っています。

○齋藤部会長 了解いたしました。ありがとうございました。

水本委員はいかがでしょう。「その他（史跡・文化財）」についてですが、

○水本委員 朗惺寺の敷地が、西側にもう少し広がるのではないかと、指摘をさせていただき、それについては、「承知した」ということでしたので、その含みをもってやられると思いますので、大丈夫かと思っています。

もしかすると、お墓が出てくるのかなと、ちょっと考えております。

○齋藤部会長 わかりました。ありがとうございました。

それでは、ただいま、皆様から御意見をいただきましたが、騒音・振動に関することが1点、それから、日影に関して、それから、風環境についてでしょうか。項目選定として上げさせていただくということで、大気汚染については、第2地区の話聞きながら、また検討したいと思います。

各審議項目につきましては、部会長と各項目の委員と個別に相談していきたいと思いますが、最終的な案に向けては、部会長に一任をしていただければと思います。

どうもありがとうございました。

それでは、次第1の1番目については、これで終了したいと思います。

○齋藤部会長 引き続きまして、次第1の2番目の「(仮称) 小山三丁目第2地区第一種市街地再開発事業」環境影響評価書案に係る質疑及び審議を行います。

まず、事業者の方に御出席いただきます。事業者の方は、Web上での出席となります。入室をお願いいたします。

(事業者入室)

○下間アセスメント担当課長 事業者、入室されました。

○齋藤部会長 それでは、事業者の皆様方、よろしくお願いいたします。

本事業の審議につきましては、4回審議予定の3回目となります。本日の進め方ですが、最初に事務局から前回の審議内容を説明していただきます。説明の後、事業者の回答内容の再確認を含め、事業者に対する質疑を行います。

事業者の出席は今回までとなりますので、委員の皆さまは、確認したい点や疑問点など十分に議論していただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

質疑が終了しましたら事業者は退席します。その後、次回の総括審議に向けて、各委員より総括審議事項の候補となる事項を挙げていただきたいと考えております。

御協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、事務局から資料の説明をお願いいたします。

○下間アセスメント担当課長 それでは、資料2を御覧ください。資料2は過去2回の部会における審議の内容を整理したものとなります。

各委員からの指摘、質問事項等を環境影響評価項目ごとに「騒音・振動」「水循環」「日影」「風環境」「景観」「温室効果ガス」「その他(史跡・文化財)」の順序で取りまとめており、合計7件、「その他(史跡・文化財)」が1件となりました。前回で追加となった事項等は、取扱欄に前回の日付として4/26(4月26日)と記載しております。

前回で追加となった指摘の項目は6ページから7ページの「騒音・振動」番号1、8ページ「日影」番号2、「風環境」番号1、10ページ「景観」番号1、11ページ「温室効果ガス」番号1となります。

要約して内容を御説明いたします。

「騒音・振動」に関しましては、番号1として、前々回に低周波音の評価の指標について質疑があり、事業者からも回答補足がありました。このことについて事業者と質疑

が行われました。

「日影」に関しましては、番号 2 として、周辺に教育施設等も多くあるので、そのような場所についても調査地点を追加することについて質疑が行われました。

「風環境」に関しましては、番号 1 として、風の予測をするときに樹木を植える配置等、別の事業者から情報を入手したかどうかということについて質疑が行われました。

「景観」に関しては、番号 1 として、北側の第 1 地区の開発と第 2 地区の開発との境目の景観的な配慮及び都道 420 号沿いの街路の圧迫感低減の保全措置に対する離隔距離の考え方について質疑がありました。

「温室効果ガス」に関しては、番号 1 として、今後事業の計画が具体的に進んでいく中で、第 1 地区と第 2 地区を併せた温室効果ガスの削減に向けた取組について意見がありました。

資料の説明は以上です。

○齋藤部会長 ありがとうございます。

それでは、御説明いただきました前回の質疑応答について、修正等がございましたら御意見をいただきたいと思えます。

発言される際には、最初にお名前をお願いいたします。

なお、事業内容や評価書案に関する質問に対しては、この後の事業者との質疑応答のときをお願いいたします。何かございますでしょうか。

水本委員、よろしくをお願いいたします。

○水本委員 こちらのやり取りについて、一部補足させてください。

史跡・文化財の対応としては、常に教育委員会と連携というところは確かなんですが、よく、最近ですと、道なんか急にどんと、すぼっと抜けてしまったりですとか、地面に見えていても下に空洞があるみたいな出来事が、結構あるかと思うんですが、そういうことというのは、実は、こういういろいろ知られていない、下にある空間によって起こっている場合もあります。

これは、史跡・文化財としても、ちょっと指摘をさせていただきましたが、実は、西側に向かって、“水道（ミズヂ）”が昔あったのではないかとということで、地下空間がある可能性があるということと、水が通る道をつくるという場合は、そこが結構、もともとの地形にリンクしている場合も多いですので、そのあたりは、少し自覚的に行って、いろいろ見ていただきたいと思えます。

それがちょっと補足的な説明です。

○齋藤部会長 わかりました。11 ページの 1 の 2 つ目のものですね。

○水本委員 はい、そうです。

○齋藤部会長 事業者もその情報をよろしくお願いします。

その他、何かございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

特になければ、これから、皆様の御意見をいただきたいと思います。事業内容や評価書案に関しまして、事業者との質疑応答を行いたいと思います。

初めに、本日欠席されている委員から、何かコメントがあるかと思いますが、事務局、いかがでしょうか。

○下間アセスメント担当課長 事務局からですが、風環境について、事業内容及び評価書案に関する質疑において、玄委員からコメントを預かっていますので、読み上げさせていただきます。

領域 B が、建設前後で増えるという結果になっているので、建設後の事後調査をしつかり行い、風環境について対策していただきたい。

また、それぞれの地区での措置（事後も含む）が変更される場合、両地域の風環境に影響を及ぼすため、現段階の措置が変わった場合や事後に対策を追加する場合、両事業者で十分なコミュニケーションをとりながら事業を進めてほしい。

とのコメントをいただいております。

○齋藤部会長 ありがとうございます。

事業者の方、何かコメントがあれば、よろしく願いいたします。

○事業者 ありがとうございます。事務局でございます。

御指摘を踏まえ、引き続き両地区でしっかり連携、調整を図りながら進めてまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

○齋藤部会長 どうもありがとうございました。

それでは、御出席の委員の方から、御質問、御意見等を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

森川委員、お願いいたします。

○森川委員 2 つありまして、第 1 地区と第 2 地区で同じような工事なので、第 1 地区の方からご返事をいただいたときに安心して、お聞きしなかったこともありまして、ま

ずは、工事車両とかの状況と、工事が終わったあとの関連車両なのですが、第1地区のときには、工事が終わったあとの関連車両とかが、第1地区と第2地区の間の道路がありますよね。そこを通るときには、時間制限とかあるし、幅が広くなくても、歩行者の空間はむしろ整備されて、いいものになるよというお返事をもらっていますが、第2地区のほうもどうなのかということです。

また、工事中の工事車両が出入りするときに、結構この空間が、商店街ということで、皆さんが安心して歩かれているところに、工事用の車両が出入りするときに、どれぐらい安全を確保するように、気を遣っていただけるのかなというところを確認したいというのが1つです。

もう1つは、またあとで質問させていただきます。

○齋藤部会長 わかりました。

初めの1件ですが、事業者の方、よろしくお願ひいたします。

○事業者 まず、道路空間のお話でございます。お話しいただきましたとおり、3-1地区と3-2地区の間の道路につきましては、現況道路から3-1地区のほうにセットバックするような形で、道路の拡幅を行っていくと。

ただし、自動車車両のための道路幅員構成については、必要最小限ということになっておりまして、むしろ、歩行者のための歩道空間が拡充されていくというような計画になってございます。

それから、これは建設中あるいは建設後と共通でございますが、自動車の路線ですね、図面で今お示しさせていただいておりますが、3-1と3-2の真ん中に貫通しているパルクム商店街、アーケード商店街ですが、こちらにつきましては開発により発生する車両が、この商店街を横断しないという計画、そうした精神でやっているところでございます。

実際に、この図でいきますと、南街区、北街区と表現しておりますが、両地区とも、相当のボリュームで商業施設が出てくるということで、当然、南街区に来たお客さんが北街区に行くとかしたときに、車両の動きなどが想定されるということで、それらの車両が商店街を地上レベルで横断することを防ぐために、地下2階の地下車両の整備をしたりといったようなことを計画しているということでございますので、今の安全な歩行環境がしっかり維持できるような計画をしているというふうなところでございます。

○森川委員 わかりました。ありがとうございます。

地下というのが、1つポイントとしてあるんですね。

○事業者 はい。

○森川委員 もう1つの大気汚染についての御質問なのですが、先ほど、第1地区の方とお話をしたときに、工事用の車両とか関連車両については、お互いに情報を共通というか、きちんと見ているよというお話だったんですが、建設機械については、ちょっと独立しているというように聞きました。

実は、第1地区と第2地区では、第1地区については、それほど建設機械の影響というのは大きくないのですが、第2地区は高層建築物が2つあるということもあって、それなりの寄与があるように見えています。

さらに、第1地区の建設機械の影響というのも、多少なりともあるかなと思っていて、幸いにして、最大濃度の着地地点が、第1地区と第2地区でお互いに反対の方向に出ているので、影響もそれほどないかなとは見えるのですが、それは平均的なというか、そういう結果ですので、実際のところは結構お互いにはないわけではないと思っています。

例えば、建設中の建設機械の稼働のピークなどがちょっと重なりそうかなというようにも見えるので、そのあたりの連携とか、また、影響が起きているのではないかというときに、どう対処されるかというようなところを、少し教えていただければと思います。よろしくをお願いします。

○事業者 ありがとうございます。

工事期間中における影響ということで、これは必ずしも騒音・振動等に限らず、工事車両の通行等も含めてでございますが、現在、3-1と3-2は、実際の工事着工に向けては、地元の合意形成ですとかに取り組んでいく必要があるということで、現段階において確実に、今お受けしているスケジュールで、両地区が工事に入ることが確定しているということではございません。

ただ、そういった状況の中で、仮に工事の時期がずれた場合、あるいは同じだった場合、どうなりそうかということが見えてきた段階で、そのあたりの影響をしっかりと両地区と調整しながら、まずは周辺に与える影響を極小化する、影響を与えないという考えのもとに、しっかりと連携、調整をしてみたいと考えております。

○森川委員 そう言っていただけると安心できるかと思えます。ありがとうございます。

○齋藤部会長 ありがとうございます。

それでは、高橋委員、お願いいたします。

○高橋委員 よろしくお願ひします。

この環境影響評価書案の騒音に関する予測値を見ると、全部基準値を下回っているの
で、これはこれでいいのだらうと思うのですが、やはり、関連車両もそうなのですが、
特に工事用車両が走行するルートには、細い道が含まれています。

例えば、区道の I-218 号線などは特に細いですが、そういうところを通ると、特に
両側に住居とか店舗が迫っている場所を通りますので、両側の住居や店舗で音が反響し
て、予測よりも大きくなってしまふような可能性もあるかと思ひます。

それから、この走行ルート全体的に、全体は商業地域とか近隣商業地域なのですが、
とはいへ一般の住居もかなり多いですし、教育施設とか福祉施設も散在しているところ
です。

ですので、工事用車両とか関連車両の走行に関して、何らかの特段の対策を考へてお
く必要があるのではないかと考へるのですが、そのあたり、現時点で何か考へているこ
とがあれば教へてください。よろしくお願ひします。

○事業者 御質問ありがとうございます。

御指摘のとおり、区道の I-218 号線は、必ずしも広いということではないというこ
と、あるいは、その道路が周辺にあります、品川区立の後地（ウシジ）小学校の通学路
線ということに指定されているというような状況でございます。

このような状況を踏まえまして、そうはいつても、そこを使わざるを得ないという状
況になりますので、まずは、誘導員をしっかりとすること、あるいは通勤・通学
時間帯には関連車両を走行させない、そして、その時間以降はこの道路を通行する際
には速度制限を行う、あるいは、予定した時間にしっかりと搬入していくような、ジャスト
インタイムの運用を行っていく。

こういったことをしっかりと実施していくということを、今後の施工計画の中でしっ
かり取り入れて、対応していきたいと考へております。

○高橋委員 ありがとうございます。

そのあたりはぜひしっかりとやっていただきたいと思ひます。

当然、歩行者の安全への配慮も含めて、しっかりといただければと思ひます。よろ
しくお願ひします。

○事業者 ありがとうございます。

○齋藤部会長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。何かございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

この案件につきましては、その他の選定された項目としては、土壌汚染、地盤、水環境、自然との触れ合い活動の場、電波障害、廃棄物、温室効果ガスがありますが、特に追加の御意見、御質問はないということでよろしいでしょうか。

それでは、特に御意見がないようですので、質疑に関しては終了したいと思います。

事業者の皆様方、本日はどうもありがとうございました。

○事業者 どうもありがとうございました。

○齋藤部会長 御退室をよろしくお願いいたします。

<事業者退室>

○下間アセスメント担当課長 事業者は退室されました。

○齋藤部会長 それでは、以上の議論を踏まえまして、次回の総括質疑に向けた審議事項の候補を上げていきたいと思えます。

委員の皆様から御提案をいただきたいと思えますが、まず、大気汚染の森川委員からお願いいたします。

○森川委員 第1地区と同じことをお聞きしたわけですが、「事後調査とか連携をしっかりとやりますよ」というお返事をいただきました。

それは、必ずやっていただきたいなと思っていて、第2地区でいうのであれば、第1地区でも同じように言わなくてはいけないなと思っていました。

総括質疑というか、意見として付けるのであれば、「その2つの地区の影響をきちんと見ていってくださいね」というような趣旨でお願いしたいかなと思えます。

○齋藤部会長 わかりました。

連携も含めて、お互いの影響を把握して、気をつけてやるようにということですね。

○森川委員 はい、そうです。

○齋藤部会長 わかりました。

そういった趣旨で、総括質疑に上げていこうということでよろしいですか。

○森川委員 そうですね。こちらで上げるのであれば、第1地区についても同じようにお願いしたいと思います。

○齋藤部会長 了解いたしました。その趣旨で、第1地区も含めてということで考えさせていただきます。どうもありがとうございました。

○森川委員 ありがとうございます。

○齋藤部会長 それでは、騒音・振動につきまして、高橋委員、よろしく願いいたします。

○高橋委員 先ほどの第1地区でも、総括審議の候補として上げさせていただいたので、こちらでも、先ほど質問しましたように、評価の値としては大丈夫そうだけれども、道が狭いということを含めて、きちんとした対応をとっていかただかないといけないのではないかという懸念があるということで、第1地区と同じような意見でお願いしたいと思います。よろしく願いします。

○齋藤部会長 わかりました。ありがとうございました。

それから、水循環に関してはいかがでしょうか。

○平林委員 適切に対応していると思いますので、大丈夫だと思います。モニタリングもしっかりしていただいているということで、大丈夫です。

○齋藤部会長 わかりました。ありがとうございます。

それから、玄委員に関しては、後ほどということで、温室効果ガスについて、堤委員はいかがでしょうか。

○堤委員 温室効果ガスに関しても、第1地区と同様に、「今後の図書の中で記載できるものについては、しっかり記載していく」というような御回答をいただいておりますので、大丈夫かと思えます。

○齋藤部会長 わかりました。ありがとうございました。

それから、その他（史跡・文化財）について、水本委員、先ほど補足をいただきましたが、いかがでしょうか。

○水本委員 こちらについては、この補足の事項で、なるべく早く動いていただくのがいいかなと思いますが、「承知した」ということなので、お任せしたいと思っております。

私の担当ではないのですが、高橋委員のところの御指摘事項について、1 ついいですか。

○齋藤部会長 どうぞ。

○水本委員 私も結構、発掘現場で工事関係車両というのをものすごく扱うので、先ほどの質問が気になったのですが、小学校、幼稚園、保育園が多いところだという御懸念をされていました。

それに対する事業者からのお答えが、時間差をつけるというようなことであったかと

思うのですが、例えば、8時から8時半とか9時ぐらいまでを車両の通行をとめるというふうに、おそらくそういう対応になると思うんですが、その場合、入構自体が多分、前倒しになるのではないかと思います。

要するに、6時台から7時台に車両を一旦入れてしまうとか、あとからというよりは、前に倒していくのかなとしたときには、「早朝にどのぐらいから」というのが、高橋委員の御質問に関連して、ちょっと気になるなと思いましたので、時間のコントロールが懸念事項かと思っております。

すみません、余分なことですが、失礼いたします。

○齋藤部会長 事業者に対して、早朝に対する取扱いについて確認するというところもあるかなとは思いますが、何かありましたら、高橋委員、どうぞ。

○高橋委員 御指摘ありがとうございました。時間云々については考えていなかったのですが、確かに言われるとおりで、スクールゾーンがあるところを通らざるを得ないということで、もし仮に水本委員が今おっしゃったように、早朝に車両を入れてしまうということをするのであれば、逆に、環境基準との絡みからいうと、早朝のほうがペナルティというか、環境基準は低くなっているはずなので、そのあたりとの関連が出てくる可能性はあるかと思いますので、その辺も事業者伝えておいたほうがいいかもしれないとは思っています。

○水本委員 すみません。私も実際、自分も車両を入れる側なので、多分そういうときは前倒さないと、日中の稼働率が下がるのではというのがあるので、すみません、余計なことでした。

○高橋委員 いえ。

その辺はどうなのでしょう。事務局から伝えていただけるのでしょうか。

○下間アセスメント担当課長 例えば、事業者を確認して、「それは、簡単にすぐできます。ちょっと改善します」ということがいただけるのであれば、事業者へ直接我々が伝えて、済ませるという方法もありますので、今後、総括審議に向けて、各委員さんと事業者の意向を考えながら御相談させていただいて、最終的に決めたいと思います。

○齋藤部会長 水本委員、高橋委員、よろしいでしょうか。

○水本委員 今までアセスでやっていて、住民感覚の生活時間と工事の方の時間の気持ちのずれみたいなことで、結構いろいろあるかと思いますが、ぜひよろしく願います。

○高橋委員 僕からもよろしく願います。

○齋藤部会長 それでは、そういう扱いにさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、本日欠席をされている玄委員からコメントを預かっているということですので、よろしく願います。

○下間アセスメント担当課長 玄委員からコメントを預かっております。

「日影と風環境を総括審議項目に上げていただきたい」ということです。

○齋藤部会長 わかりました。

それでは、大気汚染で1点、騒音・振動につきましても道のところですね。その騒音・振動に関しましては、先ほど、水本委員からの御意見につきましましては、事務局で確認していただいて、必要があればということ。それから、日影に関する点と風環境に関する点を項目に上げさせていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。

各審議案件につきましては、部会長と各項目の委員と個別に相談していきたいと思いますが、最終的な案に向けましては、部会長に一任していただければと思います。

どうもありがとうございました。

それでは、2番目の審議事項については審議を終了させていただきます。

○齋藤部会長 引き続きまして、次第1の3番目の「(仮称)神宮外苑地区市街地再開発事業」環境影響評価書案に係る質疑及び審議を行います。

まず、事業者の方に御出席いただきます。事業者の方は、Web上での出席となります。入室をお願いいたします。

(事業者入室)

○下間アセスメント担当課長 事業者、入室されました。

○齋藤部会長 事業者の皆様方、本日も御出席ありがとうございます。

本事業の審議は本日で4回目となります。本日の進め方ですが、最初に事務局から前回の審議内容を説明していただきます。説明の後、事業者から前回の回答補足について説明していただいた上で、事業者の回答内容の再確認を含め、事業者に対する質疑を行います。

本日の審議では、委員の皆様から、確認したい点や疑問点を全て出し尽くしていただ

き、十分に議論していただいた上で、可能であれば総括審議の候補を挙げていきたいと考えております。

ただし、事業者からの回答・説明が十分ではなく、審議が尽くされていない項目や内容等がございましたら、次回も事業者に御出席をいただき、当該の項目に関して、継続して質疑応答を行いたいと考えています。

御協力のほどよろしくお願いたします。

それでは、事務局から資料の説明をお願いいたします。

○山内アセス担当課長 事務局でございます。

それでは、資料3を御覧ください。こちらは過去3回の部会におけます審議内容を整理したものとなっております。

各委員からの御指摘、御質問事項と、それに対する事業者の説明等を、環境影響評価項目ごとに並べておまして、合計22件、またその他が2件ございます。

このうち取扱い欄に4/26(4月26日)の日付の記載があります前回の部会で、事業者から説明等があったもの、それから、このあと事業者から補足説明があるものについて、要約して内容を御説明いたします。

まず14ページ「騒音・振動」の番号4についてですが、建設作業騒音の予測結果は環境基準を満たしているとはいえ、できるだけ下げよう努力をして欲しいという意見があり、事業者からは保全措置を確実に行うなどの回答がありました。

15ページ、「生物・生態系」の番号1につきましては、事業者から回答の補足として、生物種の出現状況の調査方法と確認地点に関する説明がありました。これに関しまして、樹林生態系を残すためのゾーニングやネットワークの考え方について質問があり、事業者からは樹木が密集している場所を中心に残していくこと、草地と高木が混植された環境をつくっていくことなどの説明と、草地に置く具体的な植物は今後検討するとの説明がありました。

また、広場的な草地を生態系としてみなすことは難しく、生態系の残し方、どういうネットワークをつくるかを具体的に示してもらう必要があるなどの意見があり、事業者からは実際にどういう植物を移植していくかは検討中だが、できるだけ評価書に反映させていくとの回答がありました。

後ほど事業者からの補足説明がございます。

18ページ、「生物・生態系」の番号2については、事業者から回答補足として、地上

緑化と屋上緑化についてわかりやすくした緑化図、現状と将来の樹木状況を単木レベルで表現した図、文化交流施設付近の緑の保全に関する資料の提示と説明がありました。

さらに、20 ページになりますが、樹木の活力度に応じた残置、移植、伐採の本数や分布について、事業者から回答の補足として樹木単位での分布状況図の提示と、保存、移植、伐採の考え方についての補足説明がありました。

これに対しまして、さらに 21 ページから 22 ページにかけてになりますが、資料中の 2 つの表の違いについての質問や、(活力度)C と D が全て伐採となること、A、B に関して 3 割減らすことの根拠についての質問と、事業者からの回答があった上で、C、D は伐採という論理は非常に理解が難しい、安全側を見て伐採するというような論理は、ここでの議論と逆行している等の意見がありました。

後ほど事業者からの補足説明がございます。

22 ページ、「生物・生態系」の番号 3 については、イチョウに関して、壁面が道路境界線から 8 メートルというのは、根系の保全上不足している。フェンス、庇による日照の影響、スコアボードや照明、高層棟の日影の影響について、これまでの検討での配慮や予測を教えてほしいという意見・質問があり、事業者から、ネットの位置を 8 メートルから 10 メートルまで離すことが可能という検討をしているということ、ネットは透過性の高い景観上も疎外感が少ないものにしていくこと、これらによりイチョウへの影響をなるべく軽減していくとの回答がありました。

これに対し、1、2 階の店舗の庇は下がっておらず、建てる時の足場等の根系への影響について質問があり、事業者から、ゼネコンと施工者を決めるのはまだ先のことであり、施工者と一緒に検討していくとの回答がありました。

これに対してさらに、工事では地面を掘り下げる、イチョウの根に対する影響についてももう少し具体的に説明してほしい、そうでないと評価をしかねるという意見や、A、B の存置の「3 割減」にイチョウが含まれる可能性について質問があり、事業者からいちょう並木の保存は約束、大原則であるが、施工方法については、プロフェッショナルを入れて検討しなければならず、現状では「できる限り根から離れた位置に、地下躯体をつくる検討を進めていく」というぐらいであるとの回答がありました。

最後に、イチョウの健全な保全に対する調査、検討を事後調査として必ず実施してほしいとの意見がありました。

後ほど事業者からの補足説明がございます。

24 ページ、「風環境」の番号 3 については、現況でも領域 C となっている 80 番の対策について質問があり、事業者から防風植栽、防風壁により風環境を C に抑えるようにしたこと、確実に対策を行った上で、結果が予測どおりでなかったときなどは、追加の検討を行うことの説明がありました。

これに対し、80 番の地点と樹木を植えているところが違う、80 番で今後どのような対策を行うか回答が欲しいとの意見があり、事業者から、環境保全措置に追記するとの回答がありました。

また、86 番など、ぎりぎり領域 C にならない領域 B について、事後調査が非常に大事なので真剣に行ってほしいとの意見があり、事業者から、承知した旨の回答がありました。

後ほど事業者からの補足説明がございます。

27 ページ「景観」の番号 3 については、事業者から回答補足として、いちょう並木西側の断面イメージの記載の中で、建築物とイチョウの距離は現在の店舗と比べ離隔を取るとの説明がありました。

また、野球場の防球ネットを反映したモニタージュの提起があり、これに対し、28 ページになりますが、ネットフェンス、スコアボード等によるいちょう並木の景観への影響として、落葉期の評価をしてほしいとの意見があり、事業者からできる限り予測評価をするとの回答がありました。

後ほど事業者からの補足説明がございます。

また、絵画館前からのいちょう並木の景観は、もう少し引いた絵として見ることも必要との意見があり、もう少し引いて、全体の中でいちょう並木がどう見えるかも示すとの回答が事業者からありました。

29 ページ「景観」の番号 5 については、絵画館前のテニスコートの建造を反映したパースを出してほしいとの意見、ラグビー場とテニスコートの間の圧迫感について評価を加えてほしいとの意見があり、事業者から、圧迫感の予測評価をしていくこと、絵画館前広場を予測の上で再予測をすることの回答がありました。

また、テニスコート側での樹木の伐採の影響について質問があり、事業者から、絵画館前からの外周部の緑は残っていくので、極端に乾燥する等、緑地に大きな影響を与えるとまでは考えていないとの回答がありました。

さらに、絵画館前から見たラグビー場の景観への影響も予測評価の対象に含めるよう

にしてほしいとの意見があり、事業者から、承知したとの回答がありました。

後ほど事業者からの補足説明がございます。

30 ページの「自然との触れ合い活動の場」の番号 1 については、事業者から回答補足として、創建当初から現在に至る歴史を継承する計画であることや、樹木の保存や新たな緑地の創出に関する考え方について説明がありました。

31 ページの「自然との触れ合い活動の場」の番号 2 については、長期にわたる工事の中での動線確保の段階的なあり方について記載が足りない。段階的整備に応じた代替的な触れ合い活動の場やルートを、保全措置として検討してほしい。生活者にとっての目線で動線を確保してほしい等の意見があり、事業者から、段階的に自然との触れ合い活動の場へのルートがどうなっていくのかということも、評価書に記載していくとの回答がありました。

後ほど事業者からの補足説明がございます。

32 ページ、「温室効果ガス」の番号 1 については、「自然エネルギーの利用」や「地域冷暖房の利用」が予測に反映されていない、検証していく予定があるかという質問があり、事業者から、工事期間 15 年の間に徐々に計画が決まってくる。ある程度目途がたつたら、予測に反映させ、今後のアセスの中で開示していくという回答がありました。

事務局からの説明は以上でございます。

○齋藤部会長 ありがとうございます。事業者からは回答補足があるということですが、本時点で質疑応答の内容について修正等がございましたら、委員の方から受けたいと思いがいかでしょうか。事業内容等の評価書案に関しましては、この後事業者と質疑応答をしていきますので、質疑応答についての箇所のみということをお願いします。

よろしいでしょうか。

それでは、特に質疑応答に関しては御意見がないということですので、事業者の方から前回の質疑応答に関しての補足をいただいているということですので、よろしくお願いいたします。

御準備できたら始めてください。

○事業者 本日もどうぞよろしくお願いいたします。

では、画面をこちらで頂戴をしながら補足説明を開始させていただきます。

画面を共有させていただきます。よろしくお願いいたします。

日建設計から回答補足についてで、まずは一通り説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

資料の中では、次第の16ページです。回答補足といたしまして「生物・生態系」の1の続きの部分でございますが、前回の審議会の中でも御指摘で、生態系をどう残せるのか、生態系のゾーニングやネットワークの考え方ですね、あるいは塊としてどう残せるのか、どうつくるのかというようなことの御質問をいただいております。それに対する回答補足でございます。

本事業におきましては、動植物の注目される種の確認されているいちょう並木東側の緑地を保存するとともに、文化交流施設等や新ラグビー場周辺の樹木の保全や新築などにより、可能な限り既存樹木の保存・移植利用を基本としつつ、計画地周辺に残存する緑地の構成種、例えば創建時に植栽されていると思われるシイとかシラカシの樹種、あるいはケヤキなどを想定として、そういったものを中心に植栽を行っていくということを考えております。

また、中位消費者である鳥類のオナガ、コゲラといったもの、それから鳥類が好むクロマツとかムクノキ、そういったものも並木東側を中心に保存するとともに、現地調査において確認されているシラカシとか、ツツジ科のオオムラサキ、あとカタバミ、アブラナなどの低木、あるいは草類ですね、ムラサキシジミ、アゲハチョウ、モンシロチョウ、ヤマトシジミなどが好むそういった植栽を植えていこうというふうに考えております。

こういった低木、草地で構成されている文化交流施設棟周辺の緑地等に引き続き植栽していくと。動植物の生息環境に配慮した緑地計画により新たな緑地を創出するということも考えております。

なお、神宮外苑広場（建国記念文庫）のところなど緑地が一部改変される場所があるのですが、文化交流施設棟の北側に、今高木等がございますが、既存樹木ですね、それとともにこの文化交流施設棟の南側及びその周辺に高木・中木・低木、様々な高さの樹木の新植等を行うということを考えています。

この新たな新植などにおいては植える間隔、密度とか、どれだけまとまって植えるのか、間隔を空けて明るい場所をつくったりとか、あるいはもう少し薄暗い場所をつくったりとかというようなことをして、樹林内の構造が複雑になるような形で、そういった高いところ、低いところ、明るい場所、暗い場所、乾いた場所、湿った場所などを配慮

しながら、様々な空間を創出していこうと考えております。

資料の調査でも確認されている例えばヒカゲチョウなどが確認されていますが、既存の調査結果ですが、そういった少し薄暗い場所を好むようなチョウ類が確認されていたりするので、そういった緑陰空間なども創出していこうと考えてございます。

これらの緑地は、並木東側から保存するいちょう並木、文化交流施設棟と連続して、さらに緑のネットワーク、生態系のネットワークをつくると考えております。計画中の緑地は神宮外苑広場、計画地外ですね、御観兵榎というところがありますが、そこに隣接している別事業で再整備するエリアですね、そこと緑のネットワークについても維持されるものと考えております。

ここで、資料を見ていただきたいのですが、今言ったネットワークというのは資料の2になりますが、これがいちょう並木の東側の緑地部分です。これを概ね保存するというエリアになってございます。

そこと今回保存するこの周回道路の高木・中木のところ、そしてその南側に新植等を行う部分、ここら辺のその樹木群、あるいは低木・草地の混在するところがありますが、いろいろな空間をつくっていくという場所になってきます。

さらに、建設地外のところに御観兵榎の広場がございまして。こういったところとか、あるいは、当然、絵画館前の別事業がありますが、この周辺部分の樹木が残っていきませんが、そことも連携していくというところは変わりがないのかなと考えております。

あと、資料の3の3に先ほど御説明いたしました文化交流等施設棟の周辺の環境ですね、あくまでも環境のイメージですが、建物の屋上に草地をつくる、あるいは中央広場のところに草地をつくるだけではなくて、外周道路のところの中・高木を保存していくとともに、新たに中高木と低木、ここら辺のある程度バランスを考えながら、いろいろな空間ができるような形で植えていくということになります。

樹種に関しては、先ほど申し上げた樹種も入っているのですが、既存の樹種から主に選択して植えていくのかなというふうには考えております。

次に、次第の22ページを御覧ください。前回の審議会の中で樹木の活力度A、Bをどれだけ残せるか、あるいはCもA、Bと併せてどれだけ保存できるかという環境の質みたいな話が出たと思います。

それにつきましては、回答補足として、繰返しになる部分があるのですが、注目種が確認されているいちょう並木東側の緑地の保存ですね。文化交流施設棟と新ラグビー場

の周辺の樹木の保全、新植等により、可能な限り樹木の保存、移植利用を基本としつつ、計画地周辺に残存する緑地構成を中心に植栽を行っていくことを考えています。

中位消費者が好む樹種の保存や現地調査で確認されている低木といったものも植えていこうと思っております。

存置、移植の本数につきましては、これは今後の詳細な調査、あるいは工事計画等の調整を行った上で確定していく予定でございます。現時点では環境の影響が大きく出る側ですね、ということで3割減として予測しているということでございます。

今後の図書の中で本数を確定していくので、きちんとそこら辺は明記していこうと思っております。

次が、次第の23ページになります。前回の審議会の中で、根系の御指摘を受けました。イチョウの健全な保全に対する調査、検討等と事後調査として必ず実施してほしいというような御要望がございました。

それに対する回答補足といたしましては、保存するいちょう並木の西側1列については、野球場棟の近接工事着工前に樹木医の判断を仰ぎながら、根系調査を行います。その結果により施工者などと調整して、いちょう並木を保存するため、詳細な建築計画及び施工計画の検討を行うということを考えております。この旨を評価書にも当然きちんと記載をして、約束をしていこうと考えております。

次に、次第の24ページを御覧ください。前回の審議会の中で、「風環境」について御指摘を受けました。246号沿いのところに領域Cが残っているわけですが、ここについてしっかり対策を行わないと事後調査で領域Cになる可能性が高いところであり、その辺について事後調査が非常に重要であり真剣に行ってほしいといった指摘も受けております。

回答補足といたしましては、事業全体の風環境改善策については、各計画施設において対策を検討していきます。風洞実験等も今まで行ってきました。その一つとして事務所ビルにおいては高木、壁等による防風対策を行っています。

今後も計画の深度化に合わせて事業全体の風環境の改善策について検討する予定であると追記させていただきました。

次は、次第の28ページになります。景観についてでございます。景観の主にモンタージュのところの指摘でした。落葉時期についてもモンタージュを作成してほしいということもございました。今回作成いたしましたので後ほど見ていただきますが、回答補足

を読ませていただきます。

いちよう並木の景観への野球場の影響をより把握するため、いちよう並木の木を半透明にして、野球場が見える景観モニタージュを作成いたしました。かつ青山二丁目交差点側だけではなく、逆の噴水側から見たモニタージュも作成いたしました。

野球場の防球ネットとかスコアボードの照明等の高さについては、いちよう並木の高さに配慮するとともに、落葉期にこれが眺望できることを配慮して、様々な、当然ですがガイドラインがございますので、それに適合したものとしていきます。

あと、防球ネットの話も、今までの審議会の中で出たかと思えます。そこについては、安全性もあるので、安全性を考慮した上で、透過性等の詳細検討と進めていこうと思っております。

資料といたしましては、資料の3の13になります。まずは今、評価書案に掲載している景観モニタージュ、青山二丁目交差点から見たところです。今までのモニタージュでは防球ネットは反映されていなかったのですが、防球ネットを反映した形にしております。

さらに、先ほどの話で落葉の時期ですね、木の向こう側に建物が見える時期があるということで、このような形で野球場側のモニタージュ、いちよう並木を半透明にした形に作成いたしました。

加えて、こちら側、青山二丁目の逆側の北側から見たモニタージュになります。これも野球場側のいちよう並木を半透明にして、こういう形でいちよう並木の向こう側には建物ができてますよということで、工作物といったものを表現しております。これは全く新しいモニタージュになります。

次に、次第の29ページでございます。これも景観についての御質問でした。絵画館前から見たラグビー場の景観です。既に評価書案には載せてありますが、そこに周辺環境、絵画館前の計画も反映できないかと、極力含めるようにしてほしいというような話でした。

それと、ラグビー場とテニスコート間の圧迫感の話も出たと思えます。これは調査計画書では指定はされてはいないものの、前回の審議会の指摘を受けまして今回作成をいたしました。

こちらがその予測になります。絵画館前からのモニタージュです。この手前に見えている部分が、現在、軟式野球場になっておりますが、その部分は芝生の広場となる予定

でございます。

周辺の樹木は残すと。ただし、樹木は主に残していくというところで、そういったモニタージュになっております。絵画館前の景観を反映させた、絵画館前から見たモニタージュを作成いたしました。

先ほどちょっとラグビーの話、こちらを先にお話しいたします。資料の3の19になります。ラグビー場と絵画館前の広場の間のところ、地点でいきますと、御覧のように絵画館前の広場の部分とラグビー場の間の歩道になります。歩道でもラグビー場寄りの歩道で圧迫感の天空写真の撮影をしてモニタージュをつくりました。

かつ、もう一点、いちよう並木の野球場からの逆側の歩道のところでモニタージュをつくっていたのですが、手前側でも追加でつくりました。

まずラグビー場のところを見ていただきたいのですが、資料の3の19です。このような形になります。現在、これでいきますと歩道上の西側、南側辺りで、そこには防球ネットが御覧のように見えている状態です。それがずっと上まで延びてきまして、北北東辺りまで建物が増えていくような形に従後はなっていく。上が従前で下が従後です。

パーセンテージでいきますと、36.64パーセントということになります。増加分は32.81ポイントの増加になります。定量的にはそういった数値になります。

もう1か所、いちよう並木のところです。いちよう並木の西側の歩道からのモニタージュでございます。圧迫感のモニタージュでございます。これも新しくつけ加えたものでございます。上が従前で下が従後です。開発後ということはいちよう並木にかかる形ですが、この青い部分が新たに増えてくるということになります。数字でいいますと、現状と比べて1.67ポイント増加という形になります。

次に、次第の31ページでございます。「自然との触れ合い活動の場」になります。ここでは、工事が長期にわたるということで、主に動線の確保の段階的なあり方についての記載において、足りない部分がないかという御指摘を受けました。

それに対する回答補足として、工事の段階に応じて計画地の通り抜けができるよう歩行者動線を確保できる予定でございます。工事着工から神宮球場解体までの間で、神宮球場の北側、南側を歩行可能な状態にするとともに、神宮球場解体着工時には野球場棟と、球場併設ホテル棟のデッキを歩行可能とするなど、計画地内には常に東西方向に通り抜けが可能になるように配慮するというところでございます。

資料といたしましては、資料の3-21ということになります。今申し上げましたこと

を評価書に追記する予定でございますが、図といたしましては現状の神宮球場の北側、南側ですね、東西に通れるようになっていきます。これについては工事中もそのまま現状を維持しながら、進めていくということになります。

途中で野球場棟ができますと、今度はこちら側、今この部分は、東西方向へは行けません。スタジアム通りといちょう並木側。新しい球場ができますとこの球場周りにデッキができます。こういう形、球場周りにデッキができますので、このように。これは評価書案に示されているのですが、この部分についてはここが通れるようにする予定でございます。

あとは、広場の整備と同時にここの部分、ラグビー場の部分が1期で、その南側に2期工事があるのですが、その南側には今区道を付替え整備する予定でございますが、そこも整備をして通れるようにするというところでございます。

今は工事中で、完成すると、ここからは供用後の話ですが、現在、神宮がいちょう並木側とスタジアム通り側をつなぐ歩行者の動線が存在しない、一応通れるようにはなっているのですが、通路が存在しないということです。

東西方向のつながりが希薄だということで、工事完了後においては散策等が可能な東西の歩行者ネットワークを強化していくということでございます。主要な歩行者ネットワーク上には原則バリアフリーに配慮した回遊性の向上、歩道状の空地及び広場を整備するというところでございます。あと、南北通路も整備していくという予定になってございます。

供用後の歩行者動線につきましてはこのような形になります。東西動線、一番北側と東西通路、これは区道になります。あと、敷地内の東西通路、中央の部分とか南側といったものを整備していくということになります。

加えて、供用後は南北動線です。青山の二丁目からずっと計画地内、野球場の周辺のデッキを回り込んで、そのまま新ラグビー場棟に至るこのルートを整備する予定でございます。

当然、段階的に整備していく各施設につきましては、緑地広場を併せて順に供用するというようになります。そこにつきましても、この右側ですが、まだこの段階ですと文化交流施設とか、複合棟のBの辺のものはまだできていない工事中ですが、例えば、こういったところに街角広場をつくっていくというふうになる予定でございます。

以上で前回御質問していただいたことに対する補足の回答ということで、説明をさせ

ていただきました。よろしくお願いいたします。

○齋藤部会長 どうもありがとうございました。

それでは、ただいまから事業者にいただきました補足説明、それから事業内容、評価書案等につきまして事業者との質疑応答をしていきたいと思えます。

委員の方から御質問や御意見をお願いしたいと思えます。いかがでしょうか。

横田委員、よろしくお願いいたします。

○横田委員 補足資料等ご説明ありがとうございました。

説明いただいた順にお伺いして行ければと思っております。

まず 207 ページ、補足資料の 3-3 の部分ですが、こちら、生態系への配慮と断面構造を含めた一つのスポットのイメージを出していただいているのですが、前回、その前の段階として緑のネットワークにおける生態系のつながりに関する考え方を出していただきたいということで、今日マウスで動かしながら御説明をしていただいているのですが、このようなつながりに関する図面というのは見当たらないように思えます。

このサイトは評価書案で言いますと、288 ページを見ていただければ分かりやすいかと思えますが、新宿御苑の南側が青山霊園、それから東側には赤坂御用地といった形で、中央に位置していて、三者を結ぶネットワーク上になります。

このネットワークにおいて、基本の、樹木が残っているところも一つの拠点にされていくと、生態系保全の拠点にされていくということですが、その具体的なハードに関する考え方を図として見せていただく必要がありますし、そのつながりを図化していただきたいと思えます。その点についていかがでしょうか。

○事業者 御指摘ありがとうございます。今の御指摘は、生態系のつながりに関するネットワークですね。その部分についての図化ということだと思えます。それにつきましては資料作成をして、評価書に載せていこうと思っております。

確かに先ほど文章で説明をいたしました、確かにその部分だと、それだと分かりづらいというところもありますので、なるべく具体的にそのつながりが分かるような形で、図を評価書に掲載させていただきたいと思っております。

○横田委員 もう 1 点お伺いしますが、この文化交流施設棟の位置は、連結拠点になるのかということですね。それから、建国記念文庫のある神宮外苑広場のところの植栽の一群の塊は、連結的な拠点として位置づけられていると考えてよろしいのでしょうか。

○事業者 そうですね、基本的にそういうふうを考えております。御指摘のとおりかと思えます。

○横田委員 そうした場合に、影響について考えますと、文化交流施設棟の配置に関しては一連の塊のある拠点をつくるのであれば、植栽群を分割するような、分断をさせるような配置にさせるのではなく、おそらく一連の塊をつくるほうが生態系にとって効果が高いかと思われまます。

それから、建国記念文庫のところに関しても、なぜ、その施設配置がその生息拠点とする北東側の緑地を削るような形で配置されているのか、南西側に少しずらすことができないのか、この点についての考えが必要かと思えます。御説明をいただきたいと思えます。

○事業者 ありがとうございます。文化交流施設棟のところはですね。確かに、今、文化交流施設棟でくびれているような部分があると思うのですが、ここにつきましてはやはりもう少しまとまった形で、建物の配置ですね。

現段階ではかなりシングルラインの図面となっていますが、今後建物の詳細検討を進めて行く中で、これらの周辺の文化交流施設棟の周りにある緑が、できる限りつながっていくような形に持っていこうと思っています。

あと、建国記念文庫のところについては、ラグビー場の規模等々がございますので、建物の形状の変更というのはなかなか難しいのですが、ただ、これはまだ最終形ではないですので、ここについても今後この建国記念文庫のところの緑地に配慮して、計画をしていこうと考えております。

○横田委員 最終形ではないという御意見ですが、配置構造に関する検討を行うのがこの段階でありまして、この点に関して確定的な見解を示していただく必要があるかと思えます。

それから、文化交流施設棟の件ですが、今回パースを出していただいておりますが、ここで例えば、記載いただいている林縁環境をつくるというようなことは実現可能かと申しますと、難しいように思っております。

例えば、ヒカゲチョウのような生き物というのは、林床のササ類などを食草としていますが、そういったものが、前回のパースの交流施設棟の植栽としてふさわしい断面構造になっているかという点、なかなかありません。

そういった質的な検討がやはり必要なわけですし、こちらの図の2-4-7の(2)のイ

メージ図に関しても、これ生態系配慮の観点から描くとすると、生き物環境として描いていただく必要があると思います。

植栽の樹木だけではなくて、そこを利用する生物群、それをセットで描いての生態系配慮というふうに思いますので、画面的には生き物も入れていただきたいと思います。

それから、樹木に関してですが、前回、活力度調査を活用した移植・伐採の考え方というのを挙げていただきました。今回もその3割程度、一括整備を減らすというふうになっておりますが、この事業地内は主に開発影響がかかるので、活力度Bと活力度Aが多いわけです。特にBは多数の樹木によって構成されています。

このBをサイトサイトで考えますと、主たる影響がやはり伐採のみになっています。この伐採を減らすというのが、低減の観点から必要なわけで、先ほどのラグビー場の観点もそのような配置の検討をいただきたいということですし、残置ができなかった場合の考え方が移植というふうになるわけです。

移植に踏み込まれたような計画になっているのかということ、伐採が前提で、基本的には移植の対象になる樹木はないという考え方ではないのかなと思います。

そうしますと、やはり質的にというふうにおっしゃっていますが、基本的には3割を、前回の議論ですと、多めに伐採は見積もっているというふうに思うのですが、その点に関してもう少しサイトサイトで検討が必要ではないかと思いますが、いかがですか。

○事業者 はい。樹木の活力度、例えば、Bのところは実際伐採が多いのではないかと、移植が少ないのではないかと、現時点での予測ではそうなっています。

これにつきましては評価書案にも書いてあるとおり、あるいは回答でもさせていただいたのですが、極力移植を増やしていく、伐採を減らしていくということになると思います。

ただ、その辺につきましては、実際の既存の建物の躯体と絡んでいる部分とかございます。そうすると、その辺の調査もしなければならぬ。施設は供用されている状態です。そこら辺の調査をすぐというのはなかなか難しいのですが、そういう調査をした後、できる限り移植、まずは移植を増やしていくということ、伐採を少なくしていくということで、次に移植を増やしていくということを今後やっていきたいというふうに思っております。

基本的には、例えばこういう文化交流施設棟を予定されていた北側を残すところがあ

なのですが、こういった1列でずっと残っているところ、テニスコートの横とかというところもございます。

新しい施設とも被っているというところもあるのですが、既存のテニスコートが供用されているとかがありますので、なかなかすぐに調査というのは難しいのですが、こういうところも調査していつて何が残せるのか、移植できるのか、既存の他の樹木とのからみもあります。そういったところもどうなっているのかというのを調べた上で、何が残せるのかというのは決めていきたいと思っております。

もちろん、大方針として伐採は少なくしていく、移植を増やしていくというのはございます。

○横田委員 当然、樹木調査の中では移植に強い種、弱い種ですとか、移植の先に環境として適地があるかどうかというのも踏まえて移植を検討されるべきだと思いますし、隣接の新国立で行われている移植の検証も必要かと思えます。その点に関してどれくらい検討されていらっしゃるのでしょうか。

○事業者 はい。三井不動産から御回答をさせていただきます。基本の方針に関しましては、今、日建設計より御案内させていただいたところで相違ないのですが、まさに樹木医の専門的な知見を得ながら詳細な調査を進める準備を進めております。

まずは伐採を減らすと、保全を増やすというところを今取り組んでいまして、具体的に樹木の詳細な調査ということに加えて、各施設のより詳細な設計をできるだけ前倒しをすることで、一本でも保全できる樹木を増やすことができないかということ、現在検討しているところでございます。

どうしても保全が難しいと、今回の施設計画の影響等によりまして、あるいは工事等の影響によりまして保全が難しくなった場合には、移植という選択肢が出てくるわけですが、今委員より御指摘がございましたとおり、一体どこに移植するのかというところも含めまして、権利者間で土地の有効活用というところを相談、協議をしながら進めているところでございます。

今回の審議会におきまして、それらの調査結果とか施設計画の詳細な検討というところが、具体的にお示しできていないというところについては、申し訳ないのですが、具体的に検討を進めているということは事実として間違いがございません。

それから、今後そういった検討の結果につきましては、何らかの形で御懸念をいただいている皆様に発信をしていくということで、事業者の準備を進めておりますので、そ

こは御理解をいただければと思っております。

○横田委員 御回答ありがとうございます。その中には配置構造の見直しも含まれるという理解でよろしいのですか。

○事業者 はい。施設の規模は、まさに先ほど日建設計からもありましたとおり、ラグビーのフィールドのサイズとか、野球場のフィールドのサイズとか、スポーツに必要なサイズというような部分というのは変えられないというものにはなります。

しかし、それ以外の建物の計画につきましては、計画の基本構造という設計サイズになっておりますので、今後設計の詳細を詰めていく中で、あるいは工事施工計画をゼネコンと詰めていく中で、樹木あるいは生態系の環境にできるだけ影響を小さくするという努力を進めてまいりたいと思います。

○横田委員 ありがとうございます。よろしく願いいたします。

その中の構造的な観点で少し申し上げたいのですが、景観のほうに移らせていただきますと、今回追加していただいたラグビー場のところとか、隣接の事業による眺望景観の変化ということを含めていただきました。

このスポットで見たときに、空は3割以上見えなくなるというのは、回遊環境から見ると、もう少しインパクトがあるのかなというふうに思います。あるいは先ほどおっしゃった北東角の植栽に対する日影の影響なども踏まえますと、トラス式の屋根の影響というのは非常に大きいのではないかと思います。このトラス式の屋根に関しても、今おっしゃったような施設の具体的な計画の中で再検討の余地があるということで考えてよろしいのでしょうか。

○事業者 ラグビー場の設計に関しましては、今PFIという手法で、公の方々の公募、募集をかけているという状況になります。まさにその中で、このトラス式の屋根につきましても、民間の各企業から知恵が出てくるというか、そういったところが期待される部分かと思っておりますので、現時点で確定しているというものではございません。

○横田委員 分かりました。景観だけではない影響が非常に大きく残っているのかなと考えております。

それから、回遊行動に関しても御検討いただきましてありがとうございます。施設の工事中で、特に重要な回遊環境の分断が起こるのは後半からかと思っています。

後半の神宮球場の解体と、それから野球場棟と球場スペース、ホテル棟の建設の段階で、やはり従来の通行環境が分断される可能性が大きいわけです。

この間に広場も併設して整備されていくということで、広場に関して、各所できるだけ、おそらく工事期間中に開放いただけるのではないかと思いますのですが、この後半の段階での広場の先行的な開放であるとか、ここでの利用環境の確保という考え方はどの程度お考えになっていらっしゃるかということをお伺いさせていただきます。

○事業者 今、御指摘をいただきました野球場と併設ホテル棟、あるいは複合棟をつくっている間に、東西のネットワークが分断されるのではないかと御懸念に関しましては、このプロジェクトは、競技の継続性、学生野球、学生ラグビー等をプロ以外の多くの方々が使われている大型施設が多いものですから、そういったスポーツの競技の継続性というものに配慮した計画をしております、野球場が完成するまでは今の神宮球場、まさに真ん中の神宮球場はずっと稼働し続ける形となります。

つまりは野球場をつくっている間、複合棟をつくっている間も、現在の神宮球場の周辺に関しましては通行可能ということで、東西のネットワークにつきましては、現状と同じ形で御案内できるように配慮しております。

この神宮球場の周辺の連絡がなくなるときがまさに野球場と併設ホテル棟が完成した後、広場をつくるフェーズになっていくのかなという形になりますので、まず東西のネットワークに関しましては何らかの形で御案内できるように配慮していく計画としております。

それから、広場に関してですが、まずラグビー場の北側につくる際に今はございますが建国記念文庫周辺、こちらは国立競技場とも歩行者空間として一帯に整備されていく計画としておりますが、こういったところをまず広々とお楽しみいただける空間として整備することと、あるいは青山二丁目の青山口のところにつきましては、多少調整をさせていただきながらと思っているのですが、やはり地元の皆さまのこれまでやってきたイベント等、お祭り等もされていることもございますので、そういったところに配慮できるように何らかの形でオープンスペースの整備をしていきたいと考えております。

15年にわたる長いプロジェクトになりますので、御近隣の皆さんが御利用に苦勞されるという部分は、できる限り減らしていきたいと考えております。

○横田委員 ありがとうございます。

最後にいちょう並木の件についてお伺いしたいと思います、眺望景観の変化を、透過図などで配慮していただきましてありがとうございます。

これに関しましては、追加していただいた観点からビスタ景観としてどういう影響を、

どのように影響を評価されているのかということ、きちんと御説明いただきたいと考えております。

それから、工事期間中に、先ほどおっしゃったように、長期間にわたってこのエリアで影響が続くエリアになるかと思えます。その期間、このいちょう並木に関してモニタリングであるとか、あるいは先ほどの連結拠点となり得る緑地の保全的な管理というのが、非常に重要になってくるのかなと思えます。

そのような観点でこのいちょう並木のモニタリングの計画ですとか、診断があると思いますが、根系の診断やモニタリングの検討が必要だと思えますが、まずは景観的な観点に関してはいかがでしょうか。

○事業者 景観で申し上げますと、前回も4列のいちょう並木に関しましての保全というところを約束させていただいておりますが、こちらのビスタ景に関しましても、東京を象徴する大事な景観ということで、その歴史的な重要性、それから都民から愛されている場所ということ、我々事業者としても非常に重く考え感じながらプロジェクトを検討してまいっております。

ですので、景観に際しましても、今は半透明の形ということで表現をさせていただいておりますが、まずは、イチョウに元気に育てていただく生育環境を整えるということで、この4列のイチョウがきれいに見えるこの環境については、最大限配慮した計画として進めていきたいと思っております。

野球場が近いのではないかとというような御意見等も頂戴しておりますが、そういった部分に関しましては、生物・生態系、それから景観、その他諸々、多くの方が期待されている場所ということ、強く意識をしながら、計画を進めていきたいと思っております。

それから、今いただきました根系調査に関しまして、今回書類で御提示のとおり実施をしてまいります。

その時期に関しましては、今は夏を迎える時期になっておりますので、樹木にとって良い時期ではないと理解をしておりますので、こちら、樹木医の専門的な見地を受けながら、おそらく葉が落ちた後の冬場がよろしいのではないかと、今もアドバイスを頂戴しております。

それとタイミングで実施をしていながら、現状、イチョウがどういった根の張り方をしているのかとか、今後我々が計画している施設計画とどういったところを配慮していかなければいけないのか、そういったところを具体化して設計や施工に反映していく

というところを進めていきたいと思っております。

15年にわたるモニタリングという部分に関しましては、今具体的にこういった形と御回答申し上げられなくて申し訳ないですが、繰返して申し訳ないのですが、このイチョウを守るということは何より重要だと思っておりますので、適切なモニタリング方法を樹木医に相談しながら計画していきたいと思っております。

○横田委員 お願いしたいと思えます。

樹木の活力度調査の結果に対しても、きちんと保全管理をしていけば活力度というのは上がる可能性はあるので、15年間の期間中にきちんと保全管理計画の検討を、その間の保全管理計画を事前に立てておいていただいて、できるだけその移植の可能性を高めていただくということと併せて、先ほどの不確定要素が多分に残っている配置構造の検討において、きちんと反映させていただきたいなということが気になります。

以上です。よろしくお願いいたします。

○事業者 ありがとうございます。

○齋藤部会長 ありがとうございます。

それでは、平林委員、お願いいたします。

○平林委員 雨水流出抑制対策量に関しまして、現況より3倍くらい多い対策量であるというので、先ほど少し前の議論と同じで、緑化の面積がまだ具体化してないので、普通ですと対策量から浸透能力×緑化面積を引いて、最終的には貯留施設が何立方メートル必要かという雨水貯留槽の数値までがアセスメントに載っていることが普通なので、先ほどの議論で分かりましたので、計画が具体化してきましたらそういった算定もぜひ入れてください。

以上です。

○事業者 はい。ありがとうございます。承知しました。

○齋藤部会長 ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。ございますでしょうか。

堤委員、よろしくお願いいたします。

○堤委員 「温室効果ガス」の質問ではなくて、「景観」についての質問で大変恐縮ですが、専門でもないし、聞き逃している部分もあるかもしれませんので教えていただければと思います。

先ほど、景観の検討をされるときに、イチョウを半透明で表して建物がどのように見

えるかというようなことを、落葉した季節についての検討をされていたと思うのですが、圧迫感の検討のところ、天空写真の中では、イチョウが、緑が豊かな季節、これですね、こういうふうな写真で検討されていて、これも、この木がイチョウかどうかちょっとよく分かってないのですが、落葉したらまたその形態率というのが変わってくるのではないかと思っています。

ですので、今この緑が豊かな季節であれば形態率が小さく見積もられてしまう可能性があるのではないかなとも思うのですが、落葉の時期の形態率と併せて検討されるような計画があるのかどうかというのを教えていただければと思います。

○事業者 御質問ありがとうございます。

こういう形で予測したというのは、通常木がある場合に圧迫感の評価のときにやるケースが多いということでやらせていただきました。

これにつきましても、半透明のような形で再予測、もしくは建物部分をよく点線で外形を表して、どれくらいの面積になるのかと、この天空図の面積上ですね、というやり方もございますので、そこら辺はどうやるかというのはちょっと検討させていただきたいと思いますが、いずれにしてもそれは評価書に載せていこうと思っています。

現況、落葉の写真が撮れていないということもありますので、そういった半透明な形というものを取らせていただいたのですが、おそらく実際の事後調査の段階になりますと、当然、両方の写真、繁茂期というのですか、葉っぱが付いた時期と、あと落葉期の両方の天空写真を撮影して、事後調査報告という形になるのかなと思っています。

○堤委員 ありがとうございます。事後調査までいかななくても、前回の指摘の中にもありますが、アセスの本質としては最大の影響を評価するということがあると思いますので、できる限り早い段階で検討いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○事業者 はい。予測のほうは評価書に入れようと思います。

○堤委員 はい、分かりました。よろしく願いいたします。

○事業者 ありがとうございます。

○齋藤部会長 ありがとうございます。

それでは、水本委員から。

○水本委員 よろしく願いします。御説明ありがとうございます。

先ほどの関連の質問なのですが、建国記念のあの場所について等々で、こちらの件と

いうのは、例えば新宿区の教育委員会などにはもう御相談をされていたでしょうか。ちょっと質問させてください。

「史跡・文化財」等に、こちらは結構規模が大きな開発ですので、例えば新宿区の教育委員会が担当と思うのですが、そちらとコンタクトを取って、そういった点で御相談されていますでしょうか。

○事業者 はい。今回の開発は、新宿区の側と港区の側の両方またがっているわけですが、教育委員会とも当然、教育委員会及び区の担当部署と既にもう協議を始めております。

○水本委員 では、先ほど緑の関係でも建国記念のところのポイントなんか問題になってましたが、そういったところは逐次相談していけるような環境にあるということですね。確認でした。

○事業者 そうでございます。

○水本委員 承知しました。ありがとうございます。

○齋藤部会長 ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。何かございますでしょうか。

柳会長、よろしく願いいたします。

○柳会長 本日は、設計施工に係る事業者の方から、いろいろと都民の声などに前向きかつ真摯に向き合うというお考え方も示していただき、誠にありがとうございます。

伐採を少なくして、伐採がやむを得ない場合には植栽保全を図っていくという考え方である旨伺ったと思います。

大方針として、伐採を極力回避し、それが困難な場合に限って樹木医の意見を聞きながら移植をして保全を図り、状況によっては計画の一部見直しを進めるような調整も図るという考え方が、大方針であるということを確認させていただきました。

このことは、できましたら評価書に新たに項目を起こして、伐採に係る基本的な方針と考え方として明確に記載していただけると、事後調査との連続性も担保できるのではないかなと私は思いました。これは私の意見です。

○齋藤部会長 ありがとうございます。

事業者から何かコメントがあれば、よろしく願いいたします。

○事業者 はい。コメントを頂戴いたしましてありがとうございます。記載をさせていただこうと思いますので、文書を準備させていただきます。

○齋藤部会長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

横田委員から、よろしくをお願いします。

○横田委員 現状の評価書案の樹木の伐採の、存置、移植も含めた本数に関する記載というのを改めて考え方と併せて出していただくというような理解でよろしいでしょうか。

具体的には評価書案ですと 316、317 のページに、先ほどの A, B, C, D の診断の活用の在り方が書かれています。この記載に関しても大方針と併せて御説明いただくということでよろしいでしょうか。

○事業者 おっしゃるとおりです。前回ですか、今回、評価書案に載せる数字はいろいろと大きく出る側で 3 割増しで書いているというのもございますが、そうではなくて、実際の調査結果に基づいた数字といったものも記載しようと思っております。評価書に記載しようと考えております。先ほどの大方針につきましても、当然、それに併せて記載する予定でございます。

○横田委員 ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

○齋藤部会長 どうもありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。よろしいでしょうか。

今、横田委員からお話がありましたが、A, B, C, D の取扱いで、そこから 3 割という、多めに考えていらっしゃるということではあると思うのですが、会長からもお話がありました、外苑の森というのは、やはりある種の文化である、文化財的な扱いで皆に愛されている空間なんだろうと思うんですね。

ですから、その木の 1 本 1 本に関してどういう取扱いをするのかということを考えながらやってもらいたいというのが、都民から出てきた意見でもありますし、通常のアセスの中で木 1 本を取り扱うのとは違う重みが、おそらく文化財としての位置付けがあるのだと思うのです。

そういった意味で、ここの 3 割という扱いは、多めで扱っているという意味では、そういう扱いは当然あるわけですが、そこに 1 つ 1 つの木に皆の愛着があって文化財的な扱いなのだという思いを持って取り扱ってほしいということなのではないかと思えます。

そういったところを含めて御一考いただいて評価書のほうに反映していただくということであれば、皆の同意も取れるのかなと思うのですが、そこら辺も事業者の方、よろ

しいでしょうか。

○事業者 はい。おっしゃっていただきましたとおり、神宮はもともと更地のところから百年前にいろいろな方の歴史的な経緯も踏まえて今の形になっているという場所ではございます。

まさに1本1本の樹木の大事さ、それから歴史的経緯という部分に関しましては、都民の皆様の強い思いを事業者としてもきちんと認識をしておりますし、事業者としてもそもそも非常に重要に思っておりますので、そういった部分に関しましてきちんと皆様に届く形で評価書あるいはいろいろなものに記載をしていきたいと思っております。

○齋藤部会長 わかりました。そういった御方針で考えていらっしゃるということで基本的には結構かとは思いますが、特に移植に伐採、それからA,B,C,Dの樹木の状況との関連に関しましては、もう少し御意見をいただきたいというか、横田委員からも質疑をもう少ししたほうがいいのではないかと、その考え方の確認ということをもう一度させていただきたいという話でございますので、大変恐縮ですが、本日の質疑としては意見、御質問が他にないようですので、一旦終了させていただきますが、この件に関しましてはもう一度質疑をさせていただきたいと考えております。

お忙しいところを大変恐縮ですが、次回も事業者の方にはぜひ御出席をいただき、今の、特に森林の保全に関する考え方であるとか大きな方針に関して、改めて確認をさせていただきたいと考えてございます。

恐縮ですが、次回も事業者の方々には審議に御出席をいただき、補足の御説明をお願いしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいいたします。

事業者の皆様方、本日はどうもありがとうございました。熱心な御討議をしていただきましてありがとうございました。これにて質疑に関しては終了したいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

○事業者 ありがとうございます。

○齋藤部会長 それでは、御退出をお願いいたします。

<事業者退室>

○齋藤部会長 審議の冒頭でもお伝えしたとおり、本事業の審議は当初は4回で終わる予定でございましたが、3回目の時点で総括審議事項の候補となる事項が挙げられておらず、5回目の開催が必要となっております。

本日の審議を踏まえまして、横田委員から御質問がありました「生物・生態系」の保

護等について、また次回質疑をしたいと思っておりますが、事業者の対応状況などにもよりますが、質疑が必要な部分は置いておきまして、概ねその他の領域では議論し尽くしたかなと思っておりますので、本日、総括審議事項の候補を挙げさせていただきたいと思っております。横田委員、よろしいでしょうか、そのような扱いで。

○横田委員 よろしくお願いたします。

○齋藤部会長 それでは、「生物・生態系」等の項目については、次回質疑を通して総括審議事項を挙げていただくということを御了解いただいた上で、これからその他の項目につきまして、総括審議へ向けた審議事項の候補を挙げていきたいと考えております。

委員の皆様から御提案をお願いしたいと思っておりますが、まずは欠席委員の玄委員からの御意見を願いたします。

○山内アセスメント担当課長 事務局でございます。玄委員から預かっておりますコメントにつきまして読み上げさせていただきます。

「風環境」の No.3 について、総括審議事項に加えていただきたいと考えています。

理由としては、評価書案 378 から 380 ページに記載されているように、地点 80 番は建設後対策後が領域 C となっているとともに、当該地点が通学路になっているなどの意見があり、他の地点と比べて、風環境の影響が高い地点であると考えられます。

また、計画地の西側地点 86 番、南側の 37 番、79 番、81 番、129 番、北側の 105 番などのように、建設後対策後が領域 B の上限に近い地点または領域 B であるものの、建設前に調べて風環境が悪化していく危険もあります。

よって、「風環境」No.3 を総括審議事項に加えていただきたいと思っております。

以上です。

○齋藤部会長 ありがとうございます。

それでは、他の委員の方からコメントいただきたいと思っておりますが、高橋委員、いかがでしょうか。

○高橋委員 「騒音・振動」に関しては、次第の 13 ページにあります「騒音・振動」の 2 番で指摘をさせていただいている、スタジアム高さでの騒音の評価というのをきちんとさせていただきたいと考えています。

これは、こういった事業に関しては都民からの、特にスタジアムからの騒音に関しては、都民の関心が高いということもありますし、それから、今の評価書案では地上で予測していますが、地上での予測で、80 メートル地点で 55dB と、環境基準ぎりぎりであ

ると。そうすると、スタジアム高さでは回折による減衰の効果が地上よりも低くなるので、55dB よりも大きくなる可能性が考えられるということ、そういうことが理由です。

事業者からはきちんとそこでも評価をするという回答をいただいているのですが、一応総括審議には挙げていただいたほうがよいかと思えます。

それともう 1 点、これは総括審議に挙げていただきたいということではなくて、単なる補足のコメントになるのですが、「騒音・振動」の 3 番で、現状でも環境基準ぎりぎりまたは超過しているところを、走行ルートとして使うということがありますので、ここは総括審議には上げませんが、そういうところを通過するという事で走行車両の騒音をできるだけ下げてくださいような努力をしていただきたいということ、事業者に伝えていただきたいと思えます。

○齋藤部会長 ありがとうございます。それでは、ただいまの件は事務局から事業者のほうに伝えていただきたいと思えます。「騒音・振動」の 2 番のところに関しては総括審議に持っていくということです。ありがとうございます。

それでは、その他としては、森川委員は御退席をされたみたいですが、特にコメントは残されていないでしょうか。

○山内アセスメント担当課長 はい、事務局としては預かってございせん。

○齋藤部会長 わかりました。そうしますと、後ほど事務局で御確認をいただくということをお願いしたいと思います。

「史跡・文化財」につきまして、水本委員、いかがでしょうか。

○水本委員 「史跡・文化財」につきましては、事業者のもともとの影響評価案の中で、埋蔵文化財を適切に扱うようなコメントがありましたので、今日問題になっていた点について、特に建国記念のところですが、御相談されているようですが、結局かなりフレキシブルに動いていただかないと、建築計画は、かなり具体がこれからみたいなことでしたので、ちょっとその辺で計画との連動で動いていく部分を逐次相談していただければいいのかなと少し気になっています。

大方針というところではおそらく御理解いただいて動いていらっしゃると思うんですが、動きについて少し事務局から確認いただけたらなと考えています。コンタクトの取り方とかはもう十分理解はされていると思うのですが、計画に大分揺らぎがありそうなので、その辺が気になっております。

もう 1 つ、今日、部会長からお話があったのですが、やはり文化財的に緑も見えていく

という点では、都内の今の大きな緑って、実は江戸時代の大名屋敷由来のところが多くて、やはり過去の人たちがつくったものということが多いわけです。

ですので、やっぱりこのタイミングでそれをつくる側に立っているという自覚というのは、今あるものを残すというところと、残すけれどもデザインしていく部分があるので、やっぱりちょっと自覚的にやっていただきたいという中では、都内ですと皇居の昭和天皇が遺した武蔵野の景観ですとか、日比谷公園の明治の緑ですとか、いくつかコンセプトを持った仕事がある中で、そのあたりはできるだけ見ながらやっていただければいいのかなと感じております。

次回もしそういうコメントができればと思います。

○齋藤部会長 わかりました。ありがとうございました。大きな方針とも関わりがありますので、直接次回またチャンスがございますので、水本委員からも御発言をいただければと思います。ありがとうございました。

○水本委員 ありがとうございます。

すみません、あとちょっと長くなってしまって申し訳ないのですが、一つ気になっているのが、そういった意味でも、過去、明治の森ができたときの今の気温と、現在のヒートアイランドといいますか、暑い気温の中で、過去のをそのまま残していくという考え方と、今に合わせていく部分というのは、そのあたりというのは、考え方としていろいろ、私自身がどう考えたらいいかという部分もちょっと感じております。

すみません、これはコメントにもならないのですが。

○齋藤部会長 わかりました。ありがとうございました。

続いては、「廃棄物」はいかがでしょうか。

○荒川委員 特にコメントありません。

○齋藤部会長 わかりました。ありがとうございます。

「温室効果ガス」、堤委員はいかがでしょうか。

○堤委員 「温室効果ガス」も、もう既に指摘事項として入れさせていただいているので、次の審議には項目としては入れなくてもいいと思っています。

ただ、これだけの規模のものが都内のシンボリックな場所で工事をするというところなので、温室効果ガスの削減の取組というのは引き続きお願いしたいと思います。

その都度、その都度、工期 15 年の間に省エネ技術の向上なんかも出てくると思いますので、その取組を継続するとともに、情報開示を継続していただきたいと思いますというよ

うなことを、再度事業者にもお伝えいただければと思っています。よろしくお願ひします。

総括審議には入れなくて大丈夫ですので、お伝えいただければと思います。

○齋藤部会長 わかりました。ありがとうございました。

先ほど、いろいろ次回にペンディングの項目がありますが、それ以外で何か、横田委員から、この項目を挙げておくといいかもしれないというものがありましたら御提案いただければと思います。

○横田委員 先程来の議論に追加してということではございません。予測の不確実性が非常に深まっていると思っております、もし、予測の不確実性がまだ高いのであれば、どのようにその予測を、予測の範囲をきちんと位置付けられるのかということが大事ですので、この点はまた次回、主な議論とさせていただければと思います。

○齋藤部会長 わかりました。それでは、横田委員が担当されている「生物・生態系」「その他」「自然との触れ合い活動の場」等ございますが、それに関しては次回の討論の中でまた総括審議事項として改めて上げていただくということにさせていただきたいというふうに思います。

いくつか御提案をいただきましたが、各審議案件につきましては部会長と各委員と個別に相談をさせていただきたいと思いますが、最終的な案につきましては部会長に一任をさせていただきたいと思います。

次回ですが、総括審議事項に上げていただきました件、それ以外で横田委員との話にあります「生物・生態系」等につきまして、また事業者との質疑を行いたいと考えておりますので、それを踏まえた総括審議を次回していくということになろうかと思ひます。

そして答申への反映というものを検討したいと思ひます。ちょっと議論がいろいろございますので、まとめをしていくのが大変だと思ひますが、御相談しながら進めていきたいと思ひます。

次回の審議ですが、本事業の審議は4回を予定しておりましたが、今回は5回目となります。予定した回数より多く開催することになりますので、次回の総括審議についてはなるべく早く開催したほうがよいかと考えておりますが、事務局のお考えはございますでしょうか。

○山内アセスメント担当課長 事務局でございます。次回の開催の前に、今、部会長からも総括審議の事項の確認をしていただいたところですが、横田委員の質問に関する部

分について、次回の議論の上でという話がありましたが、次回の開催するときには何を総括審議していくかというところは、本日の中で整理しておきたいと思います。

こちらで確認させていただいているところだと「生物・生態系」の2番、それから、「生物・生態系」の3番、それから、「景観」の3番、「景観」の5番、「自然との触れ合い活動の場」の2番、こういったところが議論になっているかと思います。

最終的なところは、また次回の議論をした上でということではありますが、総括審議の事項といたしましては、本日そういった整理をさせていただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

○齋藤部会長 概ねそういったところが議論にはなっているので、非常に重要なところかと思いますが、詳細については、次回の質疑等もあると思いますが、項目を上げていくという意味では、横田委員、いかがでしょうか。

○横田委員 もちろん、いずれも項目に上げていただくことを前提にお話しさせていただいていましたが、「生物・生態系」に関しましては、特に、生態系ネットワークの考え方をきちんと明記いただくことですか、保全管理の考え方をきちんとたてていただくこと、そういったところが大事になります。

植物に関してですが、先ほどの、A,B,C,Dのランク付けも、基本的な考え方とその活用の仕方に関しては、やはり一番重要な点の一つと考えております。

それから、先ほどのネットワークの中で、どういうふうに質的な環境をつくるのか、対照的な環境を含めてつくる話では、きょう伺った限りでは、まだまだ見えていない部分もありますので、その点はまた次回議論させていただければと思います。

いちよう並木に関してですが、こちらも、「生物・生態系」と「景観」の観点から含める必要性を感じております。やはり、離隔距離が非常に狭くて、影響がないと言い切れない環境において、どのように保全措置をしていくのかは、もっと具体的に検討すべき事項ですし、当然、モニタリングをしながらやっていく具体的な根系調査のやり方を、追記いただきたいと思います。

また、景観的にも、ネットフェンスとか照明ですとか様々な影響が考えられます。

それから、きょう、ラグビー場に関しても高さの見直しの可能性について事業者から述べていただきましたので、その点についても次回の議論を踏まえてきちんと含める必要性を感じております。

それから、「自然との触れ合い」に関しましても、きょう長期にわたる中で、最後のほ

うでかなり大きな分断の可能性があるということで、どのようにオープンスペースの確保の仕方を考えていくかということも含めていただきたいと思いますし、その点も次回議論させていただきたいと思っています。

○齋藤部会長 後は、続けていただければと思います。

○山内アセスメント担当課長 ありがとうございます。

そうしましたら、次の審議でございますが、先ほど部会長からお話ございましたとおり、本事業の審議に関しましては予定回数 1 回超過していますので、次回の総括審議に関しましては、早期に開催したいと考えてございます。

次回の開催日時につきましては、近いうちに公表いたしますので、傍聴されている皆様方につきましては、適宜、環境局のホームページで開催日等を御確認いただければと存じます。

○齋藤部会長 どうもありがとうございました。

○齋藤部会長 最後に「その他」ですが、何か全体を通じまして御意見等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

特にないようですので、これをもちまして第一部会を終了いたします。時間超過いたしまして大変申し訳ございませんでした。皆様どうもありがとうございました。

傍聴人の方は、「退出ボタン」を押して退出をお願いいたします。

(傍聴人退室)

(午後 0 時 27 分閉会)